

JR四国労組自動車支部ニュース

2021年6月8日(No.14/1)

発行責任者/大谷 清

編集責任者/幸 大

夏季賞与交渉開始!

JR四国労組は6月8日、申第18号「2021年度夏季賞与の要求について」及び申第19号「2021年度準組合員(契約社員)の夏季賞与の要求について」団体交渉を開催した。

【申第18号】 「2021年度夏季賞与の要求」について

- 1 要求額 基本給額の1.2カ月分
- 2 支払日 2021年7月2日(金)

【申第19号】 「2021年度準組合員(契約社員)の夏季賞与の要求」について

- 1 パートナー社員(定年退職再雇用者)
基準額 契約基本賃金の1.2カ月分

- 2 パートナー社員(月給・日給適用者)

基準額

調査期間内の勤務日数	運転係	構内・デスク等	営業係・事務係
65日以上120日未満	85,000円	63,000円	63,000円
120日以上	170,000円	126,000円	126,000円

- 3 サポーター社員(時給適用者)

基準額

調査期間内の労働時間	支給額
240時間以上350時間未満	30,000円
350時間以上450時間未満	40,000円
450時間以上550時間未満	50,000円
550時間以上650時間未満	61,000円
650時間以上750時間未満	71,000円
750時間以上850時間未満	81,000円
850時間以上950時間未満	91,000円
950時間以上	96,000円

- 4 支払日 2021年7月2日(金)

<主な交渉内容>

組合：新型コロナウイルス感染症の長期化により、会社を取り巻く経営環境が厳しい状況にあることは理解するものの、組合員は今日まで「安全・安心輸送の確立」を第一義に、効率化施策や経費節減施策に最大限協力してきた。また、公共輸送機関として働く者の責任感と使命感を持ち、感染防止に努めながらそれぞれの職場で奮闘している。その取り組みを最大限評価し、会社を支えている組合員の労苦に報いるためにも誠意ある回答を要請する。

JR四国労組自動車支部ニュース

2021年6月8日(No.14/2終)

発行責任者/大谷 清

編集責任者/幸 大

会社：貴側のこれまでの取り組みは一定評価しているが、当社を取り巻く経営環境はコロナ禍により、2020年度は過去最大の赤字決算となった。また、今年度においても収入が回復する状況には至っておらず、極めて厳しい経営状況が継続している。当社の現時点での収支状況を勘案すると、これらの状況を踏まえ慎重に検討せざるを得ないと考えている。

組合：組合員は、待命休職を余儀なくされ実質賃金は目減りしている。さらに、昨年の年間賞与の大幅な減額により、組合員とその家族の生活は一層厳しさを増している。各種ローンの支払いのみならず、まさに生活給となっている夏季賞与の支給を強く要求する。

会社：繰り返しになるが、コロナ禍の長期化に伴い直近の収入動向や資金繰りを含めて極めて厳しい状況が続いており、これらを踏まえ判断したい。

組合：会社の置かれた厳しい状況は理解するが、この難局を労使一体となって乗り越えるためには組合員の士気高揚が必要不可欠である。また、職能給による定期昇給が見送られモチベーションの低下が危惧される。さらに、昨年度から離職に歯止めがかからない中、人財の流出を防止し、今後組合員がやる気を持って生き生きと働き続けるためにも英断すべきである。

会社：今後も貴側の理解と協力が必要であると考えているが、コロナ禍により収入が大きく減少し、さらに先行きが不透明な状況において、夏季賞与の支給については従来にも増して慎重な検討が必要である。

組合：収入動向が厳しい状況にあることは理解しているが、会社として収入確保に向けて具体的にどのような取り組みを考えているのか。

会社：収束後には従来の運行本数に戻すことを念頭に、これまで同様に良質な接客サービス及び快適な車内空間作りにより、お客様に選んで乗車いただくよう取り組みを進めていく。また、路線ごとの収支状況を見極めながら生き残りの策を検討していく。

組合：賞与の期間率について、今回の待命休職は会社都合によるものであり、組合員に責任はないと考える。よって、賞与算定基準の欠勤期間から除外すべきである。

会社：現行規定されている取り扱いを変更する考えはないが、今回の待命休職による期間率については、検討課題であると認識している。

組合：私たちは責任組合として、引き続き安全最優先の取り組み、収入確保、経費節減施策等に最大限協力していくスタンスである。よって、モチベーションの維持・向上のためにも会社としても精一杯の回答を示すべきである。

会社：当社を取り巻く経営環境は発足以来の極めて厳しい状況となっている。したがって、夏季賞与については、会社を存続させたうえで貴側の要求主旨、会社の体力、世間相場等を勘案しながら判断したいと考えている。

最後に組合は「コロナ禍により、当社を取り巻く環境は厳しいことは理解するものの、組合員は日夜「安全・安心運行」に懸命に取り組んでいる。年収が大幅に減少する中、夏季賞与に対する組合員の非常に強い期待感に報いるため、さらに労使が一体となってこの難局を乗り越えるためにも誠意ある回答を強く求める。」と訴え、交渉を継続することとした。

以 上